9.16さよなら原発全国集会（9月16日、撮影：国富建治）

談論暴発

▶今年の八月もまた様々な戦争関連番組があり、催しがあった。それらの多くで課題とされたのが「体験者なき時代への継承」であった。それなりに多様な取り組みが紹介され、しかし皆まだ手探りでもあるようだった。今年リニューアルされて話題となった広島の原爆資料館にも先日行ってきたが、これはひとつの大きなモデルとなるだろう。きちんと観ようとしたら３時間以上かかってしまったけど、前半の「被爆の実相」を見終え、後半の投下の経緯やメカニズムについての展示の前で多くの外国からの見学者がそれぞれに話し合っていたのも印象的だった。▶だが、例えば映画「この世界の片隅に」の受容のされ方のように、あるいはAIによる写真の自動着色のように、違和感と危惧を抱かざるを得ない傾向もある。「若い人」（だけではないが）の興味と共感を得る為であっても落としてはいけないこと、その表現が結果として「何か」を阻害してはいまいか、何度でも確認しなくてはいけんのう、とあらためて。（綾瀬川）

contents

事務局から

●第15期４号をお届けします。まだ購読申込みをされていないかた、ぜひよろしくお願いいたします。

●第15期第５号は、10月30日発行予定です。

「表現の不自由展・その後」の再開を！

８月１日に開催された「あいちトリエンナーレ2019」で、「表現の不自由展・その後」として、これまで美術館などで検閲された作品を一挙に展示する企画が盛り込まれた。この展示は、トリエンナーレ芸術総監督の津田大介が2015年に東京で開催された「表現の不自由展」（ギャラリー古藤）を観て、かつての表現の不自由展の主催者に打診したことで始まった。2015年の展示をベースに、その後の検閲にあった作品を含めた展示を約半年かけて準備してきたものだ。当然の結果として、歴史認識や天皇制など、現在の日本が抱える自由の限界がどこにあるのかを端的に示す内容になった。

開催直後から多くの抗議電話などが殺到した。他方で、想定外のこともあった。それは、会場が極めて静穏であり、展示室の外は長蛇の列となるほどの人気になる一方で、トリエンナーレ事務局に直接抗議に来る者もいなかった。展示場にいた私の実感では、まだ展示できる余地はかなりあると感じていた。最も意外だったのは、３日目になってはやばやと展示中止を大村知事が決定し、これを津田芸術総監督も受け入れてしまったことだ。

状況は流動的なのだが、「表現の不自由展・その後」実行委員会は、現在二つのことに取り組んでいる。ひとつは、法的な対抗手段をとること。13日に名古屋地裁に対して、展示再開を求める仮処分の申立てを行なった。トリエンナーレとの契約上であり、中止を継続しなければならない状況もないこと、抗議電話など脅迫への対応も可能であることなどを主張している。もうひとつは、再開に向けた「〈壁を橋に〉プロジェクト」だ。このプロジェクトの最初の企画として9月15日に愛知で、17日に東京で集会を開催した。以下、このプロジェクトからの呼びかけの文章を転載します。

■８月１日に開幕した、日本で最大規模の国際芸術祭あいちトリエンナーレ2019の「表現の不自由展・その後」（以下、不自由展）がわずか３日で中止されました。この中止決定は大村秀章愛知県知事と津田大介芸術監督によるものです。作家たちへの事前通知もなく、私たち不自由展委員会と約束した協議もありませんでした。

■「表現の不自由展・その後」に対して人種主義や性差別、日本の植民地責任・戦争責任の否定を背景とした不当な攻撃があり、あいちトリエンナーレ事務局が大変な困難にさらされたことは事実です。しかし、こうした攻撃が日本社会でマイノリティにかかわる表現に加えられるという状況は、あいちトリエンナーレから始まったわけではありません。、そうした現状こそが2015年の「表現の不自由展」、そして今回の「表現の不自由展・その後」が展示を通して問題提起しようとしてきたものです。

■しかし、「表現の不自由展・その後」が中止され、再開されることのないままの状況は、結果的に不当な攻撃の効果を主催者自らが肯定し、後押しするものになってしまいます。

■作家や市民からは、理不尽な妨害、攻撃、脅迫への抗議し、再開を求める声が同時多発的に上がっています。それは日本を超え世界に広がっています。

■私たちは中止が発表された８月３日当日、その一方的中止に抗議し、それ以来一貫して展示の再開を求めています。しかし、あいちトリエンナーレ実行委員会・大村秀章会長との再開のための協議は実現していません。

■私たちは繰り返し協議を呼びかけ、今まで待って待って待ちづつけましたが、このままでは時間切れで会期が終了してしまいます。

なんとしても再開のための具体的な対策も含めた協議の場を作るために、仮処分申し立てに踏み切ることにしました。これがトリエンナーレ実行委員会と契約を結んでいる不自由展実行委員会が取りうる現実的な手段であり、小さな風穴をあける可能性にかけたいと考えたからです。苦渋の思いでの選択です。

言うまでもなく、これは、市民の皆さん、作家の皆さんがそれぞれの立場から努力されている「再開のための行動」とともにあるものです。

■不自由展会場入り口を塞いでいる巨大な壁の向こうは、８月３日のままです。私たち不自由展委員会は東京〜名古屋を往復しながら交代で作品を守っています。

「壁が横に倒れると、それは橋だ」（アンジェラ・デービス）の言葉から、私たち不自由展実行委員会は、再開を求める行動を「〈壁を橋に〉プロジェクト」と命名し、再開に向けた具体的な対策も提案していきます。

■この〈不自由の壁〉を倒し、「表現の伝達と交流の場」を取り戻すのは、私たちです。〈不自由の壁〉を倒したとき、それは、民主主義の基本である表現の自由が守られる世界への「橋」となるでしょう。

ともに知恵と力を出し合っていきましょう！

名古屋では毎日、午前10時から1時間、トリエンナーレのメイン会場の愛知県美術館前でスタンディングが行なわれている。また、出典アーティストたちも、ボイコットや抗議声明、展示変更など様々な形で抗議の意思表示を行なっている。署名運動も複数あり、ネット署名（change.org）は短期間に３万近くの署名を集めた。

トリエンナーレは10月中旬まで開催される。まだ一ヶ月の開催期間が残っており、再開の可能性は十分にある。裁判所の仮処分決定が再開を命ずるものになるかどうかは、申立ての法的な組立以上に、多くの皆さんが再開を求め、レイシズムやヘイトの脅迫を断固として許さない意思表示をしていただくことがとても大切な段階にきている。ぜひ、再開に向けた意思表示をお願いしたいと思います。また、カンパもお願いしています。よろしくお願いします。

（小倉利丸／表現の不自由展実行委員会）

＊　＊　＊

「表現の不自由展・その後」オフィシャルホームページ
http://fujiyu.net/fujiyu/
問合せ：info@fujiyu.net

【〈壁を橋に〉プロジェクト支援カンパのお願い】
中止発表以降の不自由展の保全活動を含む、再開のための様々な活動と、仮処分申し立てに関する費用がかなりかかります。全員東京在住のため新幹線だけでもすでに相当な金額になっています。趣旨をご理解いただき、どうかご支援のほどよろしくお願いします。
口座名：「表現の不自由展実行委員会」
郵便振替：10140−94898811
ゆうちょ銀行　店番018　普通9489881

沖縄・南西諸島に米軍も自衛隊も押し付けるな!10.14討論集会へ参加を!

防衛省は、8月30日、2020年度予算の概算要求を公表した。それは7年連続、2019年度予算比1.2%増の過去最大5兆3223億円という額にのぼる。練馬、立川、習志野などで反基地運動や武器輸出反対の取り組みをしている諸グループが呼びかけ、立ち上げた、「大軍拡と基地強化にNO! アクション2019」(以下、「大軍拡NO! 2019」)は、9月16日、この概算要求の分析会を行い、24日に防衛省に大軍拡予算反対の申し入れ行動を行った。

この取り組みを踏まえ、「大軍拡NO! 2019」は、10月14日13:30より、文京シビックセンター4階・シルバーホールにおいて、「沖縄・南西諸島に米軍も自衛隊も押し付けるな！10.14討論集会」を開催する。

石垣、宮古、奄美など、南西諸島における自衛隊増強は、大軍拡予算の焦点の一つである。沖縄本島の自衛隊も増強されつつある。昨年に打ち出された新防衛大綱の目玉である「宇宙・サイバー・電磁波領域」における能力向上も、「南シナ海」、台湾周辺、そして南西諸島を舞台とした「領域横断的作戦」を遂行するための「多次元統合力」の向上が理由とされている。こうした沖縄・南西諸島で進められている自衛隊増強について、その実態を知り、広く共有する場を持ちたい。それが、この10.14集会を企画した理由の一つである。

安倍政権は辺野古新基地建設を強行しているが、南西諸島の自衛隊増強は、米軍再編と一体のものだ。米軍再編関連経費は、防衛予算では別枠にされている。それも含めた大軍拡予算の問題点を明らかにする必要がある。また、政府は、「振興予算」を手段として、米軍基地・自衛隊増強を沖縄に押し付けてきた。「振興予算」は、「復帰」した奄美に対する「奄美群島復興特別阻止法」(1954年)で生まれた。そして現在、奄美に自衛隊増強を受け容れさせるものとして、機能している。10.14集会では、それら総体のカラクリに迫っていきたいと考えている。

集会では、まず木元茂夫さん(すべての基地にNO! ファイト神奈川)に「沖縄・南西諸島の自衛隊増強」について話してもらった上で、「基地建設と振興予算のカラクリを暴く」と題して、沖縄に関しては中村利也さん(辺野古への基地建設を許さない実行員会)、奄美に関して横山哲也さん(戦争に協力しない！させない！練馬アクション)に話をしてもらう。

これらの報告&問題提起を受けて、沖縄・南西諸島における反基地の闘いといかに連帯していくのか、首都圏にあって沖縄・南西諸島の軍拡に反対するいかなる運動を構築していくのか、大いに論議していきたいと思っている。是非、ご参加いただきたい。

(池田五律／大軍拡と基地強化にNO! アクション2019)

東京戒厳令を打ち破れ! 10.22天皇即位式反対デモへ

5月1日に即した徳仁天皇の「即位の礼」が、10月22日に行われる。

「皇位継承のうち、即位の礼の中心儀式『即位礼正殿の儀』やパレード『祝賀御列の儀』などの国事行為は内閣府に計上され、総額で36億円(前回は33億円)。パレードで使うオープンカーの購入費用に8000万円、「正殿の儀」で設置される大型モニターに1億4000万円を、それぞれ盛り込んだ。祝宴「饗宴の儀」は4億6000万円(同4億2000万円)と微増」という税金の無駄遣いである。

また、キリスト者などが主張しているように「『即位礼正殿の儀』で新天皇が『高御座』に立つことは、天孫降臨神話に基づき天皇が生き神の性格を帯びる意味を持ち、これが国事行為として行われることは政教分離原則に違反する」ものでもある。

さらに、この日を前後して、首都圏では以下のような広範な交通規制が行われ、東京は「戒厳令」のような様相を呈することになる。

■10月22日及び23日

○東京都内の祝賀使節等の宿舎から皇居、内閣総理大臣夫妻主催晩餐会会場等に至る首都高速道路、一般国道等の路線及び同路線の周辺地域

ア　首都高速道路等

東京高速道路：会社線全線

首都高速道路：都心環状線全線、八重洲線全線、1号上野線全線、1号羽田線昭和島JCT～浜崎橋JCT、2号目黒線全線、3号渋谷線大橋JCT～谷町JCT、4号新宿線 西新宿JCT～三宅坂JCT、5号池袋線熊野町JCT～竹橋JCT、6号向島線堀切JCT～江戸橋JCT、7号小松川線一之江～両国JCT、9号深川線辰巳JCT～箱崎JCT、11号台場線全線

イ　一般道路

東京都内のうち、高速中央環状線、6号向島線、9号深川線、首都高速道路湾岸線を結んだ内側の地域

■10月20日、21日、24日及び25日

○祝賀使節等の来離日等に係るものとして、上記に掲げるもののほか

ア　首都高速道路湾岸線：東京国際空港(羽田空港)～東関東自動車道接続地点

イ　東関東自動車道：首都高速道路湾岸線接続地点～成田国際空港(成田空港)

ウ　東京国際空港(羽田空港)、成田国際空港(成田空港)周辺

一連の天皇代替わり過程に反対する私たち首都圏のグループ「終わりにしよう天皇制！『代替わり』反対ネットワーク(おわてんねっと)」は、即位式当日、「東京戒厳令を打ち破れ！10.22天皇即位式反対デモ」を皇居近くの新橋駅から銀座に向けて行う。デモ出発も新天皇パレードとほぼ重なる時間を予定している。

天皇徳仁は「高御座」の上から2500名の参列者を見下ろし即位を宣言すし、安倍の音頭で「天皇陛下万歳」が響き、打ちふられる日の丸のなか徳仁と雅子を乗せたオープンカーが駆ける。徳仁と安倍と日本民衆の声がこだまして、天皇は天皇になる。

こうした「異様」な事態に終止符を打つべく、声をあげましょう！

(K／おわてんねっと)

報告◎9・1自衛隊・米軍参加の東京都・多摩市総合防災訓練反対!

９月１日、東京都総合防災訓練が実施された。今年は多摩市との合同開催。会場は、多摩センター駅周辺や多摩中央公園などだった。この訓練に対し「自衛隊・米軍参加の東京都総合防災訓練に反対する実行委」による監視行動、抗議情宣、報告集会が行われた。

都の実施計画書によれば、参加者総数20,176人、車両157台、航空機８機とされる。２万人という参加者数は、これまでで最大規模。しかし、そのうち18,000人は、駅前の通行人のような人も見学するだろうという見込みでの数字だそうだ。確かに駅前から続くパルテノン大通りに並んだ展示ブースには、例年の訓練よりも見物人が多かった。主な訓練は、住民による避難訓練、住民による自助・共助訓練、避難所運営訓練、救出救助活動等訓練などだった。

今年の訓練の特徴は、８月31日から行われた避難所運営訓練。今回、なんと約140名の生徒が総合学習の授業として参加することになった。都の訓練で中学生が授業で参加するのは初めてのことだ。しかも自衛隊も参加し、炊き出しと入浴設備の開設も行うことになった。町内会の人々２〜30名は実際に入浴し、生徒は見学するのみ。当初、懸念していた自衛隊が入浴設備の説明を生徒にする際に、入隊の勧誘や国防の必要性などの話をするのではないかとの懸念があったが、班が多く時間がかかるため、中止になった。また、自衛官は宿泊せず、この日は練馬に帰るということだった。

翌日、私たちは８時半に多摩センター駅前に約30人が集合。班ごとに監視行動を行った。自衛隊の展示ブースでは、事前の市や都との交渉で隊員募集はやめろと言っていたせいか、露骨な募集案内のようなものはなかった。しかし、F35が冒頭を飾る空自のパンフレットや自衛官募集とだけ書かれたポケットティッシュは配られていた。

珍しかったのは「消防少年団」のブース。地域の消防団とは別に小学１年生〜高校生までを対象にした消防署が直接指導する消防団。配布していたチラシには「私は、火の用心に努めます。私は、礼儀正しくします。私は、すなおにします…」などといった「７つの誓い」というものが記載されていた。中学生の動員といい、防災を通じた子どもの組織化への警戒の必要を感じさせられた。今回の訓練では、防災パレードなる警察、消防、自衛隊の音楽隊のパレードも初めて行われた。全体をとおして、実践的な訓練とは名ばかりの大規模防災ショーであった。報告集会は43人が参加した。

（大西一平／立川自衛隊監視テント村）

報告◎考えさせられた!　東京パラリンピック!　ただし、アンチ

９月８日、オリンピック災害おことわり連絡会によるやや遅ればせながらの「パラリンピック１年前企画－ただしアンチ！」には約40人が参集。台風のため来東京不可となった高度産業社会批判社・自由すぽーつ研究所主宰の岡崎勝さんには、司会の機転で急遽名古屋から電話講演「パラリンピックっていいものなの？〜スポーツにとっての『障害』を考える〜」で参加していただき、「パラリンピックは障害者差別を助長する」と主張され続けてきた北村小夜さんからは「分けるな!! 分けられた障害者こそがのさばるしかない！」というお話を聞き、いろいろ学習した。お二人の話を受けて交わされた議論も踏まえ、アンチ・パラリンピックの視点整理を試みることで、報告に換えたい。

「障害」の認知と投資甲斐のある「感動を呼べる頑張る姿」が、競技参加への条件となるパラリンピックは、まず障害vs健常のカテゴリー化と障害の微細な分類（22競技540種目）を前提とする。「健康な障害者・困難を克服する障害者」像を固定化し、健常者には「障害者理解」を、「一般障害者」にはスポーツの意義や障害の「克服」志向を押しつけ、機具・器機の高度・高価化で差別を深化させ、オリンピックの場合と同様に、身体の改造的拡張とドーピングを必然化させる。

負傷兵のリハビリを起源とし、欧米では2000年頃から、そしていずれ日本でも、戦争遂行体制の一部に組み込まれていくパラリンピックは、日本では皇族たちの「慈愛による差別」の対象であり、健常者たちの「頑張るエリート障害者に対する感動」「頑張れない障害者への憐れみ」を醸成するための格好の「道徳教材」（22の徳目にぴったり当てはまる！）でもある。そもそも「能力」によって分ける体制がなくならない限り、笹川スポーツ財団がいうようなオリンピックへの「融合」（ちなみに障害者団体は反対している）をやったら、差別が巧妙に深まっていくのに、自主的に選んだ結果のように思わせられるだけのことだ。以下は筆者がたどりついたと思う結論である。

成長・発達が目的化される学校や恩着せがましい行政に期待するのではなく、「無能力者・障害者」がもっと「のさばって自己主張」し、「能力」で分けている体制を壊していく、そもそもはじめから分けることをやめる社会にしていく。そんな社会で「身体を動かしたい・汗をかきたい」という気分の人が集まって、ルールが必要なら、その場その時の参加者にあったものを決め、「楽しくプレーする」というスポーツは、祭りのような強いられた共同性とは違って、あってもいいのでは？　オリンピックもパラリンピックもまたそれらの協力・合流も、おことわりだ。

（大友深雪／オリンピック災害おことわり連絡会）

結審した香港人靖国抗議見せしめ裁判

和仁廉夫（靖国抗議見せしめ弾圧を許さない会）

昨年暮、靖国神社で横断幕を広げて東条英機の紙牌を燃やして対日抗議の声をあげた郭紹傑（アレックス・コック）さんと、民間電台記者嚴敏華（イム・マンワー）さんの刑事裁判が８月28日に結審した。判決は10月10日午後１時半、東京地裁429法廷で言い渡される。

◆靖国神社で抗議した香港人

2018年12月12日早朝、郭さんは靖国神社外苑で横断幕を広げ、東条英機の紙牌を燃やし、「南京事件を忘れるな、日本は南京事件の犠牲者遺族に謝罪と賠償を行え」と叫んだ。これを撮影した嚴さんの動画はネット上で全世界に公開された。

警備員に取り押さえられて郭さんは逮捕、同行の嚴さんも逮捕され、12月27日に住居侵入容疑で起訴され、身柄は東京拘置所に移された。

厳戒態勢のなか、３月７日に２人の刑事裁判が始まった。右翼が傍聴席の多数を占める異様な法廷で、郭さんは「日本政府は南京大虐殺の戦争責任を引き受けていない」「私の行動は日本国憲法が保障する言論の自由」と無罪を主張した。嚴さんも「記者の逮捕起訴は言論表現の自由に対する不当な弾圧」と徹底抗戦の構えだ。

◆香港の戦争体験と日本

アジア太平洋戦争で香港は1941年12月25日に日本軍に占領され、敗戦の1945年８月まで《三年八箇月》にわたり軍政下におかれた。

日本軍が香港新界の村に侵攻したとき嚴さんの祖母は幼い少女だった。カマドの土鍋にこびりついた灰墨を水で溶いて身体に塗りたくり、男の子に扮して日本兵の暴行から難を逃れたという。

当時の香港には中国各地からの難民が溢れていた。郭さんは中国福建省の出身だが、母方の叔父は日本兵に片腕を切り落とされたという。

日本軍は占領地各地で神社を建立した。現在の香港動植物公園では、香港神社の建設が始まったが、資材不足などで敗戦までに完成しなかった。海軍第二工作部（英海軍ドック）にも南海神社が、香港国民学校（日本人学校の前身）には国民学校神社がおかれていた。

戦後、英国植民地に復した香港は、日本敗戦時の10倍の人口を擁する国際金融都市に変貌した。1951年のサンフランシスコ講和条約発効後日本総領事館が置かれたが、毎年７月７日（盧溝橋事件）、９月18日（柳条湖事件）、12月13日（南京大虐殺）には対日抗議デモが行われてきた。

こうした声に対応し、戦後一貫して香港住民の声に耳を傾けてきた日本総領事館だったが、第二次安倍内閣成立後、日本総領事館は入居する交易広場ビルを封鎖し、香港市民の抗議を接受していない。歴史修正主義にたつ安倍内閣の明確な意思表示だ。

◆公訴に値しない見せしめ弾圧

弁護団はこれまでにも二人の保釈請求を繰り返してきたが、裁判所は「入管が（容疑者を）国外追放する」懸念を理由に却下し続けてきた。近年では背任に問われた日産自動車のゴーン前CEO以上、「安倍晋三記念小学校」詐欺事件の籠池夫妻以下という異例の長期勾留が続いており、二人の人身の自由を奪う人権侵害が続いている。

過去にも靖国神社はアジアの戦争被害者の抗議の標的となってきた。2009年８月11日には台湾の高金素梅（チワス・アリ）立法委員が台湾先住民の高砂族代表50人を率いて靖国神社にデモ行進し、拝殿前で「合祀された高砂族の霊を還せ」とシュプレヒコールを繰り返したが、彼女らは無事帰国し逮捕も起訴もされなかった。このように靖国神社を大混乱に陥れた台湾人が無罪なのに、静かな早朝にたった一人靖国神社外苑で声を上げた郭さんが有罪なら、「法の下の平等」を定めた日本国憲法に照らし、著しい不条理を強いられたと言えよう。7月17日に被告側証人として出廷した田中宏一橋大学名誉教授は、このような検察の恣意を厳しく非難し、裁判所に公訴棄却を求めた。

◆指弾され続ける靖国神社

８月28日、検察側は郭紹傑に懲役１年、嚴敏華に懲役10か月を求刑した。裁判所は、10月10日午後13時半に判決を言い渡すことを明らかにした。

これで一件落着近しかと思いきや、８月19日、家族と来日した中国人胡大平さんが単独で靖国神社拝殿の布幕に墨汁をかけ、抗議文を広げて朗読しようとしたところを取り押さえられ逮捕される事件が発生した。胡さんは器物損壊と住居侵入容疑で起訴されている。

胡さんは安徽省出身。江蘇省で会社を経営するかたわら作家活動をしている。胡さんも日本の軍靴に平穏な生活を蹂躙された中国人民の一人として、明確な抗議の意志を持っていた。

奇しくも前出の高金素梅さん、香港の郭さんと合わせ、今日にいたり中華世界《両岸三地》の靖国抗議が揃い踏みする結果となった。過去には韓国人による抗議活動もあり、戦後70年を経てなお靖国神社に対するアジアの厳しい眼差しがあることを明らかにした。

明治維新の戊辰戦争で官軍戦死者を祀った東京招魂社に始まる靖国神社は、西南戦争・日清・日露戦争、そして大東亜戦争（ママ）の戦死者を合祀し《英霊》に祀りあげることで、日本軍国主義を正当化する役割を果たしてきた。

敗戦後、神社本庁と切り離し《宗教法人靖国神社》となっだが、Ａ級戦犯の合祀や、当人の意に反した台湾人軍属の合祀で国際世論の非難に直面してきた。

過去には保守層にも靖国神社の存続を問題視する見方があった。大正デモクラシーを代表する言論人だった石橋湛山は、1945年10月12日の『東洋経済新報』社論で「靖国神社廃止の議」を唱えた。靖国神社の存続はアジアの戦争犠牲者の怨恨の対象となりつづけると唱えた。

その湛山が政界入りし自由民主党総裁選挙で決選投票の末、安倍晋三の祖父岸信介を破って２代目総裁となったのは奇遇というほかない。いま湛山の懸念は現実のものになったのではないか。

『米軍が最も恐れた男　カメジロー不屈の生涯』

佐古忠彦監督（2019年、日本、128分）

前作「米軍が最も恐れた男　その名は、カメジロー」は、公開時、知花昌一さんへのインタビューに行った沖縄で、観た。平日の昼間にも関わらず、会場の桜坂劇場は、ほぼ満席で、同作の沖縄での人気の高さを、物語っていた。

その感想を、私は次のように、書いた。

「アメリカ占領下の沖縄で、那覇市長として、一歩も引かずに占領軍と対峙し追放、被選挙権まで剥奪された、瀬長亀次郎の生涯を、TBSが保有する膨大な未公開資料やインタビューを交えて描いた作品で、その亀次郎の不屈の闘いを、今日の辺野古の闘いや、翁長知事の、日本および米政府への姿勢の、いわば原点として、描いている。やや硬直した、紋切り型の手法が気にはなったが、テレビでよく観ていた佐古さんの、真面目な性格がよく出た、よい作品だと、そう思った」

それから、二年後の今年、続編である「米軍が最も恐れた男　カメジロー不屈の生涯」が、公開された。今回は、渋谷のユーロスペースで、観た。やはり、平日の昼間。観客はまばらで、しかも、私と同じ、高齢者が大半だった。確かに、沖縄でも高齢者の比率は高かったように思ったが、東京ではほぼ全員が高齢者、という感じだった。

佐古監督は、同作のパンフレットの中で、前作の感想で、「家庭でのカメジローの顔を知りたい」「かっこいいカメジローは分かった。かっこ悪いカメジローもみてみたい」等という声があったことをあげて、まずは亀次郎が残した230冊以上におよぶ日記を熟読することから始めたと、書いている。つまり、前作の山場であった、1971年の国会での、当時の佐藤首相との、一歩も引かない対峙に至る、亀次郎の歩みを、その日記と、関連する映像資料、そして、当時の亀次郎をよく知る、次女の千尋さんや、関係者へのインタビューを通して、丹念に追った作品である。

結果として、「かっこ悪いカメジロー」は、あまり、描かれていない。ただ、「うちはいつテレビ買うの？」といった、末娘の「はてしがない」追及に、タジタジの亀次郎といった、家庭での微笑ましいエピソードは、それなりに、追加されている。

結論的にいうと、ドキュメンタリー作品としての完成度からいえば、やや荒削りの感があった前作に比べ、より精緻度を増したと、思う。しかし、基本的には、前作のくり返しの感が強いし、その闘いを、沖縄の大地に深く根を張るガジュマルの樹に、たとえてはいるが、辺野古や、故翁長知事の闘いに直接ダブらせるといった、前作のストレートな表現は、姿を消した。少し、寂しさもあるが、でも、なおかつ、出来のよい作品であると、十分、評価出来る作品ではある。

（土方美雄／年金では生活出来ない生活者）

『徴用工裁判と日韓請求権協定』

山本晴太・川上詩朗・殷勇基・張界満・金昌浩・青木有加著　現代人文社刊　2000円+税

嫌韓ナショナリズムが吹き荒れている。特に昨年10月に韓国・大法院で「徴用工」判決が出されて以降、安倍政権は「完全かつ最終的に解決」したのだから「国際法上ありえない」と非難し、マスメディアも韓国政権の「ちゃぶ台返し」を印象づける報道で批判を煽った。そして日本政府は、日本経済への影響も顧みず、事実上の「対抗措置」として対韓経済戦争へと踏み込んだ。文在寅政権は「反日」政策で韓国世論の支持を調達しているなどとドヤ顔で分析する者は、安倍政権こそ悪質な世論扇動を行っていることを、なぜか言い落す。政府の政治宣伝に見事に洗脳されているという他ない。

安倍改憲に批判的な人々も例外ではない。共同通信社の世論調査（9月12日付報道）で、安倍政権下での憲法改正に反対47.1％・賛成38.8%だが、日経新聞の世論調査（9月1日付報道）では、韓国向け輸出管理強化への支持67%、対韓関係で「日本が譲歩するぐらいなら改善を急ぐ必要はない」も67%となっている。韓国に対して「いい加減にしろ」と思う人たちがこれほど大勢いるのが残念ながら現実だ。

1965年の日韓基本条約とともに結ばれた日韓請求権協定で「完全かつ最終的に解決」したとされてきたのに、文政権が日本の歴史的責任を突然蒸し返したのであれば、「反日政権」とまでは言わずとも、不審に思うのも無理はない。だが、そういう理解自体が、実は日本政府側の一方的な解釈でしかない。本書はそのことを明らかにしてくれる。

戦時下日本で「強制労働」させられ、賃金も労働環境もまともに与えられず、戦後も十分な補償を得られなかった人たちが、裁判に訴えた。かれらの被害体験は、日本の政府・企業の非人道性を明らかにするが、弁護士たちが執筆した本書は、単に道義性に訴えるものではない。冷静に韓国政府側の解釈変更も確認しながら、近年の韓国・大法院判決を可能にした条件の一つが日本政府の個人請求権の解釈（外交保護権のみ喪失）であることを指摘する。ところが、日本企業が訴えられるようになると、「手のひら返し」で解釈を変え、訴えを退ける根拠とした。私自身は日韓基本条約や請求権協定自体、日本の植民地支配責任を認めず賠償金でもない（経済協力でしかない）ため、そこから考え直すことにも正当性があると考えるが、大法院判決はそこに手を付けたわけではなく、その上で妥当性な論理で日本企業への賠償金支払いを命じている。「徴用工」問題を理解するのに、本書は必読だ。

たとえ「経済戦争」とはいえ対韓ナショナリズムを煽る政策は、日本国憲法の（本来の）積極的平和主義に反している。そもそも、戦争・植民地支配責任は、本来は日本国憲法の土台に位置すべきはずのものだ。「今ごろ」ではなく、「今なお」責任問題が追及されることに、戦後日本の無責任ぶりが映し出されている。

（松井隆志）

反改憲ニュースクリップ

安倍再改造内閣、改憲へ立て直しの布陣

8月19日～9月14日

【8月20日】〈昭和天皇〉昭和天皇と初代宮内庁長官・田島道治との「拝謁記」に関する詳報（東京新聞より）。サンフランシスコ講和条約の発効を控えた1952年２月18日、昭和天皇は「吉田（茂）ニハ再軍備の事ハ憲法を改正するべきだという事を質問するやうにでもいはん方がいいだらうネー」と田島に尋ねる。田島は「陛下の御考を仰せニなりませぬ形で御質問ニなる程度はおよろしいかと存じます」と忠告した。「侵略者が人間社会ニある以上…」と述べた昭和天皇に対して田島は、即刻「それは禁句」とくぎを刺している（３月11日）。田島が憲法改正には国民投票が必要だと指摘すると、昭和天皇が「そんなものが入るのか」（３月８日）と驚きを見せ、制度を十分に理解していなかった様子が浮かぶ。

【8月22日】〈日韓関係〉韓国大統領府が、日本と結んでいる軍事情報包括保護協定（GSOMIA）を破棄することを決めたと発表。日本政府はこれに抗議。

【9月2日】〈表現の不自由展〉国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」で中止に追い込まれた「表現の不自由展・その後」をめぐり、日本外国特派員協会で津田大介芸術監督と不自由展実行委員会のメンバーが別々に記者会見。実行委メンバーは、芸術祭全体のトップを務める大村秀章愛知県知事と津田氏による中止の判断は一方的だったと批判し、展示の再開を訴えた。

【9月3日】〈自民〉自民党の麻生派が横浜市内で研修会を開く。麻生太郎副総理兼財務大臣は「自衛隊が憲法違反だという学者が大勢おり、存在を明確にすべきだ。世論調査では、多くの国民が、国会での改憲論議を望んでおり、それにきちんと応える責任がある」と発言。

【9月5日】〈同性婚〉同性の法律婚が認められないのは違憲だとして、福岡市の男性カップルが国に損害賠償を求める訴訟を福岡地裁に起こす。２月に全国４地裁で一斉提訴され、今回が５件目。福岡市は、18年４月から性的少数者のカップルを公的に認証する「パートナーシップ宣誓制度」を導入し、２人も同年６月から制度を利用しているが、婚姻によって生まれる法的権利や義務は一切得られていない。

【9月6日】〈維新〉片山虎之助・日本維新の会共同代表が毎日新聞「政治プレミア」に寄稿。「憲法は国の最高法規で根本規範だ。それについて国会で議論をしない、させないというのは国会議員の職務の放棄だと私は思う。それならば、歳費を返せということにならないか」と主張。**〈歴史認識〉**韓国の首都ソウルと釜山の市議会が、アジア太平洋戦争中の徴用に関わったなどとして、日本企業280社余りを「戦犯企業」と指定し、その企業の製品を購入しないよう教育機関などに努力義務を課す条例案を可決。／新聞労連が日韓関係の悪化をめぐる声明を発表。「対立の背景には、過去の過ちや複雑な歴史的経緯がある。政府は自らの正当性を主張するための情報発信に躍起だが、押し込まれないようにしよう」などと訴える。

【9月7日】〈内閣改造〉自民党の下村博文憲法改正推進本部長が、安倍首相が行う党役員人事に関し、「幹事長や政調会長を中心に、党全体で憲法議論を盛り上げることが必要だ」と述べ、改憲への機運を高めることに期待感示す。

【9月8日】〈日韓関係〉菅義偉官房長官がテレビ朝日番組に出演、日韓関係について「こじれてきたのは、全て韓国に責任があると思っている」と述べる。

【9月10日】〈宇宙の軍事利用〉国立天文台が、７月に開かれた教授会議で、防衛省が運営する「安全保障技術研究推進制度」への研究応募を許容する方向の天文台規則改正案を提出していたことが判明。16年には「応募しない」方針を採っていたが、転換した。

【9月11日】〈内閣改造〉第４次安倍再改造内閣が発足した。麻生太郎副総理兼財務相と菅義偉官房長官は留任。外相に茂木敏充外相を起用し、防衛相には外務相から河野太郎が横滑り。文科相には安倍側近の萩生田光一を配する。記者会見で安倍首相は「憲法改正原案の策定に向かって、衆参両院の第１党である自民党は今後、（国会の）憲法審査会において、強いリーダーシップを発揮していくべきだろう」と述べる。

【9月12日】〈世論調査〉共同通信社の全国緊急電話世論調査によると、安倍首相の下での憲法改正に反対は47.1％で、賛成38.8％を上回った。**〈安倍発議〉**公明党の北側一雄副代表が、安倍首相が改憲に改めて意欲を示したことについて「一番大事なことは（衆参両院の）憲法審査会を開いて議論を進めることだ。野党に議論してもらえるような環境を作ることが大切だ」とクギを刺す。

【9月13日】〈安倍発議〉自民党が、憲法改正推進本部長に細田博之元幹事長を再登板させ、事務総長に根本匠前厚生労働相、事務局長に山下貴司前法相をそれぞれ充てる人事を固める。衆院憲法審査会の会長には佐藤勉元国対委員長を起用し、与党筆頭幹事は新藤義孝元総務相が留任へ。／自民党の石破茂元幹事長が、安倍首相が意欲を見せる憲法９条に自衛隊を明記する改憲案について「何も変わらないのなら、優先して取り組むべきは国民生活にかかわる問題だ」との考えを示す。

【9月14日】〈安倍発議〉自民党役員人事で幹事長代行に就任した稲田朋美が、憲法改正に理解を得ようと、各都道府県を回る全国行脚を滋賀県高島市から開始。**〈国民民主〉**国民民主党の玉木雄一郎代表が、自民の改憲布陣が固まったことに関連して、「憲法の議論はワイルドではなくマイルドに進めてもらいたい。決して数の力で押し切るような議論にならないよう尽力してほしい」と述べる。

集会・行動情報　10/6 ～ 11/3

▶10月6日（日）ときわ台9条の会講演会「参院選後の新しい情勢と九条改憲阻止運動の展望」◆14：00◆あーちぷらざ5階ホール（東武東上線中板橋駅）◆講師：高田健◆許さない！戦争法・オール板橋行動

■中国・新疆ウィグル自治区の強制収容を語る：ビデオ上映とウィグル人のお話◆14：00◆あむねすみと2Fハングルアカデミー（JR水戸駅）◆お話：クリスタン・エズス◆アムネスティ・インターナショナル水戸グループ

■九条の会・千葉県医療者の会講演会「民主主義とは何か、安倍政権とメディア」◆14：00◆ホテル・プラザ菜の花（JR千葉駅）◆講演：望月衣塑子◆主催：九条の会千葉県民主医療機関連合会、千葉県保健医師会◆要事前申し込み：TEL：043-248-1619保険医協会・小早川晃、FAX：043-245-1779／email：a-kobayakawa@doc-net.or.jp

■救援連絡センター50周年記念シンポ：改憲攻撃下の弾圧といかに闘うか――天皇代替わり・オリンピック情勢の中で◆13；00◆曳舟文化センターレクホール（京成線京成曳舟駅、東武線曳舟駅）◆パネラー：内田博文、鵜飼哲、笹沼博、三角忠、コーディネーター：山本志都（弁護士、救援連絡センター運営委員）◆資料代800円◆救援連絡センター

▶10月7日（月）共謀罪法廃止！秘密保護法廃止！「12・6　4・6を忘れない」国会前行動◆12：00～13：00◆衆院第2議員会館前◆共謀罪NO！実行委

■辺野古新基地建設を許さない！防衛省抗議・申し入れ行動◆18：30◆防衛省正門前（JR・地下鉄市ヶ谷駅）◆辺野古への基地建設を許さない実行委

▶10月8日（火）「オルタナティブな日本をめざして第34回　STOP：水道事業民営化＝公益事業の私物化を許さない」◆18：00◆報告；内田聖子（PARC）◆スペースたんぽぽ（JR水道橋駅）◆参加費800円

▶10月12日（土）討論集会「天皇代替わりと学校教育」◆13：30◆文京区民センター2A（地下鉄後楽園・春日駅下車）◆都教委の暴走を止めよう！都教委包囲首都圏ネットワーク

■シンポジウム〈民主主義はどうなる～2020年代の政治を語ろう〉◆18：30◆菊池恵介（同志社大教授）「混迷するヨーロッパ 左派ポピュリズムの挑戦」◆松尾匡（立命館大教授）「7月参院選挙で見えてきた左派ポピュリズムの可能性」◆18：30◆キャンパスプラザ京都4階第4会議室（JR京都駅）◆グローバル・ジャスティス研究会

▶10月14日（日）大軍拡と基地強化にNO! 沖縄・南西諸島に米軍も自衛隊も押し付けるな！ 10・14討論集会◆13：30◆問題提起：木元茂夫、中村利也、横山哲也◆文京シビックセンター4F・シルバーホール（地下鉄後楽園駅）◆資料代：500円◆大軍拡と基地強化にNO! アクション2019

▶10月15日（火）ねりま九条の会記念集会「国境を越えた平和への旋律と言葉」◆やぎりんトリオ＆リベルタ×大前恵子。神田香織、伊藤千尋、高遠菜穂子◆練馬文化センター小ホール（西武線・地下鉄練馬駅）◆昼の部：14：00　やぎりんトリオ＆リベルタ、神田香織、伊藤千尋◆夜の部：やぎりんトリオ＆リベルタ、神田香織、高遠奈穂子◆前売り：1000円、当日：1200円◆ねりま九条の会

▶10月19日（土）安倍9条改憲NO ！ 安倍政権退陣！10・19国会議員会館前行動◆15：00◆衆院第1議員会館前◆戦争させない・9条を壊すな！総がかり行動実行委、安倍9条改憲NO全国市民アクション

■いらんばい！天皇制　集会◆14：00◆福岡大手門パインビル2F（地下鉄赤坂駅ほか）◆脇義重、桜井大子◆天皇代替わりを問う九州・山口連絡会

▶10月20日（日）憲法を変えさせない！誰も戦場に送らない！「日の丸・君が代」強制反対！10・23通達撤回！学校に自由と人権を 10・20集会◆13：15◆日比谷図書文化館（地下鉄霞ヶ関・内幸町駅）◆講演：望月衣塑子「民主主義とはなにか――安倍政権とメディア」◆ライブトーク：浪速の歌う巨人パギヤン（趙博）◆特別報告：関誠◆学校に自由と人権を10・20集会実行委

■とめよう戦争への道 めざそうアジアの平和 2019関西の集い◆13：00◆エルおおさか2Fエルシアター（京阪・地下鉄天満橋駅下車）◆屋良朝博、半田滋◆大阪平和人権センター、戦争あかん基地いらん！「関西のつどい」実行委、戦争をさせない1000人委員会

◆10月22日（火）東京戒厳令を打ち破れ！10.22天皇即位式反対デモ◆13：15集合◆ニュー新橋ビル地下ニュー新ホール（JR新橋駅）◆15：00デモ出発◆終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク

■主権在民を否定する10・22新天皇即位式典抗議デモ◆14：00中之島公園中央公会堂水上ステージ◆デモ15：10◆天皇代替わりに異議あり！関西連絡会

◆10月25日（金）韓国・沖縄民衆と連帯し安倍政権を倒そう！ 10・25新宿デモ◆18：30集合、19：00デモ出発◆新宿アルタ前広場◆よびかけ：アジア共同行動日本連絡会議（AWC）、沖縄文化講座、労働運動活動家評議会、日韓民衆連帯委員会、戦争法廃止・安倍たおせ反戦実行委

■アジア連帯講座・公開講座「イギリスは今 ブレグジット（EU離脱）をめぐる労働組合運動の現状」◆講師：浅見和彦（専修大学経済学部教授）◆18：30◆文京区民センター3C◆アジア連帯講座

◆10月26日（土）［学習集会］ゼネコンと国策：辺野古受注企業の知られざる歴史◆18：30◆報告：加藤宣子◆東京ボランティア・市民活動センター・A会議室（JR飯田橋駅）◆資料代：500円◆Stop ！辺野古埋め立てキャンペーン

◆11月3日（日・休日）9条改憲NO ！国会前抗議行動◆14：00◆国会正門前◆戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委、3・1朝鮮独立運動100周年キャンペーン実行委

▶「反改憲」運動通信：1部400円（月1回発行／第15期：2019年6月～2020年5月）
▶事務局・連絡先：〒101-0063　東京都千代田区神田淡路町1-21-7　静和ビル2A　淡路町事務所気付
▶Fax：03-3254-5460▶E-mail：hankaiken@alt-movements.org▶https://www.alt-movements.org/han-kaiken/
▶年間定期購読料：印刷・郵送4000円／PDF・Eメール3000円　▶郵便振替：00190-7-11558「反改憲」運動情報通信